

第1回民事信託士検定課題(自社株等信託)

一社) 民事信託士協会

1. 会社概要

商号	株式会社 甲
発行済株式の総数	普通株 1000 株
業務内容	倉庫業・運送業・梱包業
資本金の額	金 1000 万円
1 株時価	150 万円
役員	代表取締役 A
	取締役 (副社長) B
	取締役 (専務) C
	監査役 D
株主 (10 名)	A 720 株
	Aの長女 120 株
	Aの次女 20 株
	B 70 株
	C 70 株
会社成立	昭和 50 年
従業員	20 名

2. 相談者Aの状況及び考え等（代表取締役：73歳）

- ① ㈱甲は、Aが一代で築いた会社であり、親族も従業員として雇っている。カリスマ性があり、Aの意向が会社の意向とされる状況にある。
- ② 経理を担当する従業員として勤務している長女を後継者としていたいと考えているが、遺言を残すなどの対応がなされていないまま今日まで来ている。
- ③ 長女が後継者となるには時間がかかるだろうと懸念し、副社長Bと専務Cを頼りにしているが、社内体制整備が進んでいない。
- ④ 1～2年前から、体調が不安定になり始め、出社しないことが多くなっているが、重要事項については、副社長がA宅を訪問してAの意向を確認するようにしている。現時点で、判断能力に問題は無い。
- ⑤ 副社長Bに一時期会社を任せ、長女が後継者となる環境が整った時点で、長女に承継するという事も考えているが、Aが万一のときに、Bがこの希望を叶えてもらえるか不安がある。
- ⑥ 本社の不動産は㈱甲名義であるが、倉庫の一部はA個人名義であり、㈱甲と賃貸借契約を締結している。

3. 人物関係とそれぞれの考え

（1）Aの長女（45歳）とその家族状況

- ① 5年前より㈱甲で経理担当として勤務している。別会社で経理として10年の経験がある。離婚し、20歳の長男がある。
- ② 会社を継ぐ意思はあるが、Aと同じような手段で経営していけるとは考えておらず、BやCの意見も尊重していきたいと考えている。

（2）Aの次女（40歳）とその家族状況

- ① 貿易会社に勤務している。海外勤務も経験しており、社交的で物怖じしない性格である。配偶者や子は無い。
- ② 長女が㈱甲を継ぐことについて異論はないが、権利意識はしっかり持っており、Aが死亡した場合には、当然、法律に従って遺産を配分されるべきだと考えている。

(3) 副社長 B (60 歳)

- ① 15 年前に取引先で働いていた B の営業力と行動力を A が見初め、憐甲に招く。6 年前に副社長として役員に就任。
- ② A の長女が後継者になることに異論は無いが、将来社長死亡時に会社株式が社長の配偶者や次女にも相続されることによる混乱を懸念している。

(4) 専務 C

- ① A とは縁故関係にあり、20 年前から甲会社に勤務。10 年前から役員に就任している。
- ② C は、面倒見や人柄が良いので、従業員の信頼も厚く、長女の教育者として適任であるが、副社長に押され気味のところがある。

【課題】

1. 上記概要の会社に対し、A から長女への承継手段として信託を活用する場合のメリット・デメリットを他の手法との比較表で説明してください。
2. 信託スキームとその契約書案を作成してください。

以上